

命をつなぐ救急搬送



令和5年の救急出動件数が**過去最多**の3,561件となりました。

【問合せ】市消防本部 警防課
☎782・5331

救急車は生命に関わる地域の有限な資源です

救急車の要請頻度が高まる中、ニュースなどで取り上げられているタクシー代わりの不適切利用や、救急活動の状況をSNSに投稿するなどモラルの低下が救急活動に影響を及ぼしています。このことは一刻を争う重症傷病者への対応の遅れにつながります。

自力で病院に行ける人や症状が軽い人は、119番通報する前に「本当に救急車が必要か？」を考えましょう。判断に迷う場合は救急安心センター事業（#7119）への電話や、全国版救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」を活用することで緊急度に応じた対応方法のアドバイスが受けられます。

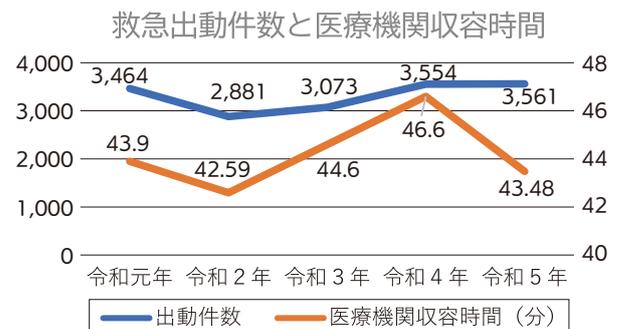
（詳しくは、24ページ「救急医療」に掲載）

限られた医療資源を有効に使い、必要な人に適切な医療が届くよう、みなさんのご協力をお願いします。

突然の強い頭痛や胸痛など、生命を脅かすような症状がある場合はためらわずに救急車を呼んでください。



樋口 救急分隊長



収容までの時間短縮に取り組んでいます

救急件数の増加に伴い、医療機関収容までに要する時間は全国的に延伸しています。令和4年の全国平均は47.2分、市消防本部の平均は46.6分でした。

市消防本部では、令和4年から救急隊が現場でスムーズに活動を行い、医療機関に搬送するまでの時間を短縮することを目的に、救急車が現場に到着するまでの間に傷病者や家族などに直接電話をかけて情報収集を行う「プレアライバルコール」という取り組みを開始しました。

この取り組みにより、令和5年では医療機関収容までの時間が令和4年と比較し3分以上短縮することができました。一刻も早く医療機関へ収容できるように、今後も改良を重ねていきます。



市消防本部管内には、5台の救急車が配置されています。